

地域包括ケアシステム構築に向けたモデル地区の取り組み

(共興地区)

目的

住み慣れた共興地区で、安心して暮らし続ける方法について関心を持ち、自分自身や地域としてできることを考え、取り組んでいく。

計画立案 (H29 年度中)

- ① 地域の実態把握
- ② 住民への説明、ビジョンの共有及び実施内容の具体的な検討
- ③ 実践
- ④ 評価

取り組み状況

① 地域の実態把握

- ・ 東日本大震災により、津波の被害を受けた後「共興地区を守る会」を自主的に立ち上げ、地域の防災活動に取り組んでいる。
- ・ 高齢者の集う場として、共興地区社会福祉協議会が「共興いきいきサロン」を立ち上げた。
- ・ 地域包括支援センターに寄せられる相談の中で、認知症による介護、虐待の相談事例が多い。

② 住民への説明会、ビジョンの共有及び実施内容の具体的な検討

H29 年 7 月 26 日 19 時～共興地区コミュニティセンター

<対象者> 共興地区社会福祉協議会役員 30 名

<内容>

地域包括ケアシステムと具体的な取り組みについて説明

- ・ 自分自身が元気でいられるには
- ・ 地域で集う場をつくるには
- ・ 地域での日常的な支援は
- ・ 認知症の人を地域で応援するには
- ・ 病気や介護が必要となっても住み慣れた地域で生活するには

<意見>

- ・介護予防や認知症の支援について、役員から住民へ啓発していくには、役員自身が、理解を深める必要があるので、まずは役員が実際に体験してみたい。

<結論>

- ・「いきいき百歳体操」の体験「認知症サポーター養成講座」の受講の実施。
- ・できるところからの取り組みとして「上野」「塔の前」地区から開始して他に拡げていく。

③実践

H29年8月18日 19時～共興地区コミュニティセンター

<対象者>共興地区社会福祉協議会役員 25名

<内容>「いきいき百歳体操」の体験「認知症サポーター養成講座」開催

H29年9月12日 10時～共興コミュニティセンター

<対象者>上野、塔の前他リーダー 4名

<内容>

- ・「いきいき百歳体操」説明会の日程、実施場所等について検討。
- ・「病気や介護になっても我が家で暮らし続ける方法」について聞き取り。

<意見>

- ・メンバーの集め方については、リーダーが直接チラシを持って誘いに行く。
- ・長続きするよう歩いて通える近くの集会場で行う。
- ・自宅で医療や介護を受ける方法については、目の前の問題として捉えている人もいるはずなので、具体的に知りたい。

H29年9月22日 13時30分～上野里コミュニティセンター

<対象者>上野地区他住民 11名

<内容>「いきいき百歳体操」の説明 体験

今後の予定

○生活支援について

- ・生活支援コーディネーターが実施したニーズ調査について意見交換会の実施。

○医療介護連携について

- ・「病気や介護になっても地域で暮らし続ける方法」について懇談会の実施。

○共興地区の中で「いきいき百歳体操」「認知症サポーター養成講座」を拡げていく。